

時間割コード	G2B50507	開講年度	2026				
授業題目	信州の防災学				担当教員	菊池 聡	
英文授業名	Seminer of disaster prevention in Shinshu					廣内 大助・神田 孝文	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生	全
講義室	東洋計器講義室（20番講義室）		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				・幅広い視野のもと物事を俯瞰し判断する力を身につける ・他者とのコミュニケーション能力を高める ・的確に情報を収集し、理解し、発信する力		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、多文化協働、防災減災、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	地震や水害など災害の発生を耳にする機会が増えており、私たち自身の被災も決して他人事ではない。一方で日本のこれまでの防災システムは公助を中心に構築されたものであり、自助や共助による備えを充実し、災害に備える必要がある。東日本大震災の発生などによって一般市民の防災に対する意識は高まり、地域防災を担う人材の必要性も高まっている。本講義では地震や風水害などの災害発生の仕組みから、個人や社会がどう対応すべきかまで防災・減災に関する基本的内容や課題について講義や実習より学ぶ予定である。地域災減災センター教員や外部講師を交え、これら災害への備えについて詳述する。また本講義では実際の地域防災、防災教育、復興ツーリズムなどを体験できるオプション企画を準備している。座学だけでなく体験を通して学ぶ仕組みを準備している。本講義は「防災士」資格取得のための推奨科目に位置付けられている。（履修上の注意を参照） なお、授業中に「防災減災」に関するアンケートの協力をお願いする場合がある。						
(5)授業のキーワード	「地震」「風水害」「災害」「地域防災」「防災教育」「防災減災」「防災士」「救命救急」						
(6)授業計画	第1回 「ガイダンス」菊池聡（信州大学人文学部/地域防災減災センター長） 第2回 若月薫（信州大学繊維学部/地域防災減災センター防災減災研究部門長） 第3回 大塚勉（信州大学特任教授/地域防災減災センター） 第4回 吉谷純一（信州大学工学部/地域防災減災センター地域連携部門長） 第5回 竹下欣宏（信州大学教育学部） 第6回 松田昌洋（信州大学工学部） 第7回 生田明子（信越放送） 第8回 竹内 裕希子（熊本大学、大学院先端科学研究部(工)） 第9回 長野県危機管理課、松本市危機管理課 第10回 中部電力株式会社 株式会社アイコーポレーション 第11回 今村浩（信州大学医学部/地域防災減災センター副センター長兼医療支援部門長） 第12回 内山琴絵（信州大学教育学部） 第13回 古越武彦（特定非営利活動法人長野県NPOセンター事務局次長） 第14回 神田孝文（信州大学地域防災減災センター特任助教） 第15回 宮川史枝（元小学校校長） 第16回 茅野理恵（信州大学教育学部） ＊第16回目は授業のアンケートを実施します。						
(7)成績評価の方法	成績評価は課題（レポート・試験等）による 課題の出された科目に対して必ず提出をすること 1課題あたり100点満点とし、すべての課題を合計し課題回数分で割り平均点を出す。						
(8)成績評価の基準	総合的な評価点は次のように位置づけられる ■90点以上:秀(基準から卓越している)地域防災リーダーとして、災害と防災について多面的で豊富な知見を備え、地域や組織の防災減災活動を主導的に担う十分な能力がある ■80点以上:優(基準よりも、かなり上にある)地域防災リーダーとして、災害と防災について適切な知見を身につけ、防災減災活動を自律的に進めることができる ■70点以上:良(基準よりも、やや上にある)地域の防災人材として、実際の防災減災の実現に多くの寄与が可能な能力を身につけている ■60点以上:可(基準を満たしている)災害の仕組みや防災減災活動の実施などについて十分な知見を身につけている ■59点以下:不可(基準を満たさない)						
(9)事前事後学習の内容	・各回について、関連する書籍などを図書館で閲覧し知見を深めておくこと。また授業後にはレポート等の作成を通じて、授業で得られた知見を定着させ、またより発展的内容について自ら学ぶ事を求める。 ・授業受講者に対して、土日祝日や長期休暇中、後期にオプション企画として防災を学ぶ実習を予定している。希望者は下記 ～ のいずれも体験して、防災の現状や課題を体験を通じて学ぶ機会を得ることができる。 復興ツーリズムを学ぶ：2014年神城断層地震の被災地（白馬村小谷村）を巡り、震災アーカイブを活用しながら地表地震断層などの震災遺構や復興の様子を体験します。						

(9)事前事後学習の内容	地域防災を学ぶ：地域防災（マニュアル作成や避難所設営・運営の課題）を地域住民との話し合いに参加しながら学ぶ 防災教育を学ぶ：小中学校現場での防災学習（特にフィールドワーク）を支援し防災教育を学ぶ その他
(10)履修上の注意	コロナ感染症拡大状況と信州大学の行動基準をもとに、オンラインやオンデマンドで実施する可能性もある。受講にあたっては信州大学e-LearningプラットフォームeALPSシステムを活用する。 【防災士資格の取得について】 本講義は「認定特定非営利活動法人日本防災士機構」の「防災士」の受験資格を満たしている。防災士資格を希望する受講者は「防災士教本」を各自購入の上、「本講義の全ての回に出席」することが必要となる。さらに 最終回に出す防災士資格取得用課題レポートの提出、 別途実施する救命救急（実技）講習（無料）の受講、 防災士認定試験（有料）の受験が必要となる。「防災士」の資格試験方法については授業中に案内をする。 基本、防災士認定試験料金は （１）教本購入（４,０００円） （２）受験料（３,０００円） （３）登録料（５,０００円） となる。防災士資格試験費用に関しては、授業中に案内をする。 【メディアなどの撮影について】 本授業では写真やビデオ等による記録を行い、広報資料等に活用する場合がある。またメディア等による取材等が入ることもある。本事項を承諾するもののみ受講すること。 【授業に日程について】 講師の都合により授業の順番が変更になる可能性がある。その際はメールで連絡しますのでメールはよく見てくこと。 【任意のアンケート調査実施について】 半期の授業期間を通して、学生の防災減災意識やリスク対処行動などを調べるため、継続的なアンケート調査を実施する。これらの記入は任意だが、ぜひ協力をいただきたい。調査は信州大学の研究倫理委員会の認可を得て行われ、データは防災研究目的でのみ利用される。成績評価とは関係なく、個人を特定しての公表などは一切行わない。
(11)質問、相談への対応	授業に関する質問や相談は授業終了後に受けつける。もしくは必要があれば、以下まで連絡をください 「信州の防災学」副担当（授業統括） 氏名：神田孝文 E-mail:t_kanda@shinshu-u.ac.jp へ連絡。 信州大学地域防災減災センター（0263-37-2064） 担当教員は、外出や打合せが多いため対面相談が必要な場合は事前連絡すること なお、電子メール等の送付の際には、要件や氏名を記載ください。 これら要件を満たさない連絡については、原則返答しない。
(12)授業への出席	履修する全ての回に出席することを基本とする。出席しなければ課題情報がありませんので、成績評価は不可能となる。致し方ない欠席の場合は極力事前に申し出ること。また授業内容に即した課題を出す都合上、遅刻すると解答が難しくなる。決して楽ではないため、意欲ある学生のみ受講をお勧めする。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	本授業は防災士資格取得の条件となる性格上、全ての回に出席することを必須とする。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	防災士教本 防災士資格取得の場合は購入が必須となる。購入方法は授業中にお知らせをします。 今すぐできる学校の防災管理（東京法令出版）